

# 「The Climate Pledge (気候変動対策に関する誓約)」概要



「The Climate Pledge」は、将来世代のために安心かつ健全な地球環境を築くことを目的とし、世界最大の危機に対して、企業や組織が共同でアクションを起こすための誓約です。

署名企業は、パリ協定の目標よりも10年早い、2040年までにネットゼロカーボン（温室効果ガスの排出量実質ゼロ）を達成することを約束します。

Amazonは2019年、Global Optimismと共同でThe Climate Pledgeを立ち上げ、最初の署名企業となりました。

## コミットメント

The Climate Pledgeでは、パリ協定の目標よりも10年早い、2040年までにネットゼロカーボンを達成することを呼びかけています。署名企業は、以下の3点を約束します。

1. 定期的な報告：3つのスコープすべてについて、温室効果ガス排出量の定期的な測定と報告

2. 排出量の削減：効率性の改善、再生可能エネルギーの活用、材料・資材の削減など、排出量の削減につながる施策を含む事業の変革やイノベーションを通じて、パリ協定に沿った脱炭素戦略を実行

3. 信頼性の高いオフセット：追加的、定量的、実質的かつ永続的で社会に有益なオフセットを用いて残りの排出量を相殺し、2040年までに年間の温室効果ガスの排出量実質ゼロを達成

## 参加資格：

- 営利企業
- 従業員数20人以上
- 誓約のコミットメントを満たすこと

## The Climate Pledgeへ署名することのメリット

- 行動、知識、ネットワークを重視し、志を同じくするグローバルで影響力のある企業のコミュニティの一員となる
- 他の署名企業と知見を共有する機会が得られる
- 他の署名企業と共に気候変動対策に関するプロジェクトに取り組む機会が得られる
- 会議やイベントへの参加や協業の機会が得られる
- 気候危機への対策を拡大するためのプラットフォームに参加することができる
- 影響力を拡大するツールやリソース、コミュニケーションチャンネルへのアクセスが得られる

## パートナーシップ

The Climate Pledgeは、「We Mean Business coalition」、「Race to Zero」、「TED Countdown」、「Science Based Target Initiative (SBTi)」をはじめとする主要な団体に加わり、民間の力を結集して、2040年までにネットゼロカーボンを達成するために必要なリソースや支援を提供しています。



# 用語集

**ネットゼロ**：温室効果ガスの排出量と大気中から除去する量を差し引きゼロにすること。主に排出量を削減することで実現すべきものであり、削減できない残りの排出量は除去することで対応する。

**スコープ1、2、3**：スコープ1は、自社および自社の管理下からの直接的な排出。スコープ2は、他社から購入したエネルギーを消費することで発生する間接的な排出（例：電力）。スコープ3は、自社のバリューチェーン内で発生するその他のあらゆる間接的な排出を指す（例：出張や製品の使用）。

**金融に係る排出量**：融資や投資、保険の引き受けに関連する排出量は、金融機関によるスコープ3の測定に含まれる。

**カーボン・オフセット**：事業から排出される二酸化炭素やその他の温室効果ガスについて、同等量を別の場所で除去、もしくは削減することで、差し引きゼロにするプロセス。

## カーボンクレジット

**実質的**：プロジェクトによって吸収もしくは回避された温室効果ガス（CO<sub>2</sub>換算値）の測定に正当性があること。

**定量的**：確固とした科学的データに基づいた認証済みの測定方法を用いて算出されていること。

**追加的**：カーボンマーケットによるインセンティブがなければ実現しなかった排出量の削減もしくは除去であること。

**永続的**：クレジットの発行後、永続的で不可逆的な排出削減が行われること。

**リーケージの防止**：オフセットに用いられるプロジェクトが起因となり、プロジェクト外での排出量を増加させてはならない。

信頼できる第三者クレジット認証システムによる  
**監視、報告、認証。**

**社会・環境セーフガードへの準拠**：カーボンクレジットの創出は、いかなる法令、条約に違反するものであってはならない。また、社会・環境セーフガードのための国際的なベストプラクティスの基準を満たしていなければならない。





# よくあるご質問

## The Climate Pledgeは入会金が必要ですか？

いいえ、The Climate Pledgeへの参加には、料金も費用も一切かかりません。

## 署名企業は、The Climate Pledgeへの取り組みについて対外的に説明する必要はありますか？

はい。署名企業は、定期的に一般公開される報告書、および署名企業となる際の対外発表などを通して、The Climate Pledgeへの取り組みについて対外的に説明を行う必要があります。

## The Climate Pledgeの参加資格は？

従業員数20人以上で、[誓約事項](#)に同意すれば、世界のどの国の企業でも参加資格があります。ただし、たばこ業界や銃火器業界の企業は除きます。

## The Climate Pledgeは、業界内あるいは業界横断的な気候変動の取り組みと、どのように関わっているのですか？

The Climate Pledgeの署名企業になるということは、組織として、パリ協定の目標より10年早い、2040年までのネットゼロカーボン達成を公約することになります。The Climate Pledgeは、素早く行動し、更なる気候対策を引き起こすことができる企業や組織をひとつにまとめることを目指しています。また、「Race to Zero」、「We Mean Business」、「TED Countdown」など、さまざまなパートナーと連携しており、将来的にさらに多くのパートナーと連携を進めていきたいと考えています。

## 私の会社や組織は、温室効果ガスに関するデータの定期的な測定や報告を行っていませんが、The Climate Pledgeに参加することはできますか？

はい。ただし、署名から1年以内に、定期的な測定と報告を行うことを約束しなければなりません。温室効果ガス排出量を定期的に測定して報告することは、The Climate Pledgeの署名を行う際に、企業や組織が同意しなければならない、3つの主要なアクションのひとつです。私たちは、企業がネットゼロカーボンの達成に向けた事業変革の方法を特定するという大きな作業を始める前に、自らのカーボンフットプリントをマッピングして測定する必要があると考えています。測定や報告の方法についてのガイダンスや、報告方法に関するベストプラクティスについて提案が必要な場合は、当社のチームがサポートします。

## The Climate PledgeにおけるAmazonの役割は何でしょうか。

Amazonはeコマースからクラウドコンピューティング、消費財やデバイス、デジタルストリーミング、食料品等々、幅広い事業を手掛けるグローバル企業です。AmazonはThe Climate PledgeをGlobal Optimizmと共同で立ち上げ、最初の署名企業として、パリ協定の達成目標よりも10年早い、2040年までにネットゼロカーボンの達成を約束しています。この誓約に向けてAmazonは、排出削減の取り組みを続けると同時に、他の企業にもThe Climate Pledgeへの参加を働きかけ、気候変動という緊急課題に対する企業の目標や計画を前倒しするよう促していきます。

## Climate Pledge Fundとは何ですか？

「Climate Pledge Fund（気候変動対策に関する誓約のための基金）」は、AmazonがThe Climate Pledgeを通じてネットゼロカーボンを達成するために、持続可能な技術やサービスの開発を支援する20億米ドルのベンチャー投資のプログラムです。Climate Pledge Fundでは輸送および物流、発電、エネルギーの貯蔵および利用、製造および素材、循環経済、食品および農業など、さまざまな業界の多種多様な企業への投資を検討しています。あらゆる規模のあらゆるステージの企業が対象となり、商品を作る前段階にあるスタートアップ企業から、すでに十分な体制が整いスケールアップを目指す企業までが含まれます。それぞれの投資に関して統一したテーマとなっているのは、Amazonの排出量削減や事業全体の持続可能性の向上に貢献する可能性があるかどうかという点です。Climate Pledge Fundの詳細、お問い合わせについては、[こちら](#)をご覧ください。

## Climate Pledge Friendlyプログラムとは、どのようなものですか？

Amazonは、お客様がより持続可能な製品をご購入いただけるよう「Climate Pledge Friendly Program」を導入しました。詳細については[こちら](#)をご覧ください。